

番 号	25-02
案件名	第5次中野区一般廃棄物処理基本計画（案）について
意見募集期間	令和8年1月29日 から令和8年2月19日まで

## 1. 提出方法別意見提出者数

提出方法	人（団体）数
電子メール	1
電子申請（Logo フォーム）	
ファクス	
郵 送	
窓 口	
合 計	1

## 2. 提出された意見の概要及びそれに対する区の考え方（同趣旨の意見は一括）

合計意見数	7 件
-------	-----

## 【「意見交換会における意見・質疑の概要と区の見解・回答」について】

No.	提出された意見の概要	区の考え方
1	「現在、他自治体と連携をとりながら、業界団体への働きかけも含め、国や都に要望をしているところである。このような連携の中で、効果的な方法やタイミングを捉えて行うべきと考えており、計画の中で、重点施策の具体的な取組を示すのは困難である」との事だが、方法やタイミングは具体的に書けないにしても、どういう方針で取り組んでいくか、くらいは書けるはずであるし、書くべきだと思う。「必要があります」という評価だけでなく、どうするかを書くべき。	引き続き、市区町村等が共同して調査・研究等を行う会議や都市間の相互情報交換や連絡調整を行う組織を通じ、拡大生産者責任等を国や業界団体に訴えていくものであるが、それ以上の詳細な方針を書き込むことは、計画全体の記述のバランス上困難である。

2	<p>「全量資源化」は、収集した陶器・ガラス・金属ごみの全量を対象に資源化施設に持ち込み、選別をしていることを示したものである。どうしても資源化できないものが出てしまう現状であるが、今後、それを含めて資源化を検討している状況であり、この表現について変更はしない」との事だが、全量資源化はできていないのに全量資源化を検討している状況だから全量資源化と表記する、というのは不自然だし、表記が事実を正しく表しておらず、誤解を招く。全量資源化されているものと誤解すると、これ以上のごみの削減や分別の徹底が必要ないと考える人も現れる可能性があるため、正しく現状を表す記述とすべき。</p>	<p>「全量資源化」という記述についての区の見解は、意見交換会実施結果報告書で示したとおりであり、ご理解いただきたいと思っている。またこの記載をもって区民の意欲が薄れることは無いと考えているが、今後とも様々な啓発活動により、ごみの減量・分別の必要性を周知していく。</p>
3	<p>「基本理念として掲げる「ごみゼロ都市」の達成年次を計画に掲げることは本来望ましいと考える。ただし、中間処理や最終処分を受け持つ実施主体の計画との整合を図ることはもちろん、今後の社会全体の生産や消費のあり方の動向等からも影響を受けるなど複雑な要素がある。よって、本計画では基本理念の実現に向けた10年間の計画を定め、5年後と10年後の目標値を設定しているものである」との事だが、中間処理や最終処分を受け持つ実施主体の計画との整合を図る必要があるなら、整合する目標を立てるべき。今後の社会全体の生産や消費のあり方の動向等からも影響も受けるなど複雑な要素があるのは当然だが、変更が有り得るから目標を立てないのでは目標の意味がない。むしろあるべき目標を立てて、情勢が変わったらその時点で見直すべき。</p>	<p>「ごみゼロ都市」の達成年次を計画中に示すことは本来望ましい。一方で、区が目標を設定するには相応の根拠が必要であり、目標年次を「何年」と定め、責任をもって区民・事業者にも協力をお願いすることは困難である。「ごみゼロ都市」の理念の早期実現のため、本計画のタイムスパンである10年の中で最大限努力すべきことを計画化している。</p>
4	<p>「これまで収集した情報をもとに課題を整理し、これらの品目も含めた廃棄物の資源化に向け積極的に推進していきたいと考えているが、取組プロセスまで計画に書き込むことは困難である」との事だが、取組プロセスまで計画に書き込むことが困難であっても、積極的に推進するつもりであればその方向性だけでも記載すべき。「情報収集を行った」という事実だけでなく、それをどう取り組みにつなげるかを記述すべき。</p>	<p>「情報収集を行った」とあるのはこれまでの取組を記載したものであり、これを基に今後新たな資源化品目の検討の取組を行っていくことを計画(計画案P23)に示している。</p>

【第5次中野区一般廃棄物処理基本計画(案)について】

No.	提出された意見の概要	区の考え方
5	<p>計画案P9の脚注3に「「ごみゼロ」:積極的にごみの発生抑制、資源の回収を行い、残ったごみを焼却・熱回収し、灰を有効利用することで埋め立てるごみをゼロとすること。」とあり、埋め立てる量をゼロにさえすれば良い、という印象を与えかねないので、焼却量を減らす事を目指している旨を明記すべき。</p>	<p>計画案P12の「図6 ごみゼロイメージ」で示しているとおり、発生抑制→再使用→中間処理→有効利用を経て、「ごみゼロ」を目指すことを理念に掲げている。焼却量を減らすことはその過程であり、「ごみゼロ」に含有されているものと考えている。</p>
6	<p>計画案P9 脚注3『「ごみゼロ」:積極的にごみの発生抑制、資源の回収を行い、残ったごみを焼却・熱回収し、灰を有効利用することで埋め立てるごみをゼロとすること。』とあるが、「ごみゼロ」と言うと、ごみの排出そのものをゼロにする事をイメージするのが普通だと思う。埋め立てゼロを目指すのであれば、「埋め立てゼロ」などとしないと、誤解を招くのではないか。</p>	<p>計画案P12 図6でも「ごみゼロイメージ」を示し、意図が伝わるよう説明をしている。ごみ処理の結果だけでなく、排出抑制などその過程で生じるごみ減量の行動も重要であると考えていることから、平成12年に策定した第一次の計画から一貫して「ごみゼロ都市」を目指すことを基本理念としている。区民に幅広い3Rの活動を促すキャッチフレーズとして、より遡及しやすい「ごみゼロ」を掲げていく。</p>
7	<p>レジ袋が大きく問題視されている状況を考えれば、ごみ袋を減らす事も考えるべき。ごみそのものの削減に頼るだけでなく、ごみ袋を使わない回収方法も検討すべき。長期的課題として挙げ、検討を進めるべき。</p>	<p>令和7年度中野区ごみ組成分析調査では、ごみ排出時の外装は燃やすごみ量全体の1.3%であった。また、「ふたのできる容器」での収集もしているが、収集後の容器の回収等区民の負担が大きく、利用は少ない状況である。これらを踏まえると、まず発生抑制を推進するとともに、ごみの中の資源化可能物の混入率を減らすことに尽力すべきと考えている。ごみが減ることにより、ごみ袋も削減されることを期待したい。</p>

3. 提出された意見により変更した箇所とその理由

なし